

科学者委員会学術体制分科会
論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会の設置について

小委員会名：論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会

1	所属委員会名	科学者委員会学術体制分科会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>日本学術会議は、科学者委員会において「科学者の在り方」を検討事項の一つとしており、そのために「学術体制分科会」を設置し、学術体制に関する総合的な検討を行っているが、その中の一つの検討項目として、「研究インテグリティに関する、国内外の現状調査、課題の整理、今後の対応方策に関する検討」を挙げている。</p> <p>「研究インテグリティ」という概念は、従来「研究公正」という言葉で表現されていたものの拡張形態を表すもので、近年、いわゆる特定研究不正（捏造、改ざん、盗用）に限定せず、研究の公正さを担保するために考慮すべき事項をより広くとらえようとする考え方である。</p> <p>本小委員会では、従来の特定研究不正以外の事例が広がりを見せ、社会的課題になっていることに鑑み、まずは査読不正問題をテーマとして、学術の振興にとっての査読の意義、査読実施体制を支える規範的理念を明らかにし、現状の課題について問題提起を行う。この目的のため、第一線で活躍する外部の研究者や若手等も委員として加えて審議する。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none">1. 査読の意義・重要性についての検討2. 査読を実施する際の規範となる対応指針（投稿者、査読者、編集者など）について、分野間の違い等を含めた検討3. 査読の意義を貶める不正行為についての検討4. 審議結果を取りまとめ、学術体制分科会に報告すること に関すること
5	設置期間	令和5年1月26日～令和5年9月30日
6	備考	新規設置